

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
横浜ファッションデザイン専門学校		昭和51年8月16日		櫻井 則子		〒 230-0051 (住所) 横浜市鶴見区鶴見中央1-9-5 (電話) 045-501-5460																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人桜井学園		平成20年4月1日		理事長 櫻井 武美		〒 230-0051 (住所) 横浜市鶴見区鶴見中央1-9-5 (電話) 045-501-5460																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
服飾・家政	服飾・家政専門課程	国際アパレル科		-	-	-																														
学科の目的	世界各地の様々な国や地域から集まるチャレンジ精神が旺盛で豊かな個性をもった留学生を日本で就職ができるように指導、教育することを目的としている。本学科はアパレル関係及び一般企業のオフィス業務や販売管理業務などの仕事に就くために必要なスキルを身につけ、日本のみならず様々な国や地域において活躍できる人材を育成する。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	授業内容としては現代のビジネスに欠かせないIT活用スキルやコミュニケーションスキル、販売スキル等のビジネス科目の他、本学の特徴でもあるアパレル業界の仕事に就くために必要な授業として、アパレル業界の構造を知る科目や色彩学、スタイリングなどデザイン知識を学ぶ科目が多く組まれています。科目の内容を理解し日本人にも劣らないスキルを身につけるため、すべての教員が授業をわかりやすく丁寧に教授している他、生活指導面においても専任による充実したサポート体制を整え、授業以外にも安心して学生生活がおくれるようにしている。取得可能な資格としてリテールマーケティング検定・簿記検定・POP広告クリエイター技能検定・サービス接客検定などの取得を目指している。																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,700 単位時間	1,380 単位時間	170 単位時間	150 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																											
				〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位	〇〇 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																															
160人	108人	108人		1%	6%																															
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 6人</p> <p>■就職希望者数(D) : 6人</p> <p>■就職者数(E) : 6人</p> <p>■地元就職者数(F) : 2人</p> <p>■就職率(E/D) : 100%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 33%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100%</p> <p>■進学者数 : 26人</p> <p>■その他</p> <p>結婚</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等</p> <p>(令和5年度卒業生)</p> <p>SBSリコーロジスティック横浜金沢(流通)</p>																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 0</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 〇〇〇〇 受審年月: 〇年〇月 評価結果を掲載したホームページURL 〇〇〇〇</p>																																			
当該学科のホームページURL	<a href="https://yfd-c.com/disclosure/">https://yfd-c.com/disclosure/</a>																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	〇〇 単位	うち必修単位数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	〇〇 単位
総授業時数	1,700 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																			
うち必修授業時数	1,700 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																			
総単位数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した演習の単位数	〇〇 単位																																			
うち必修単位数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	〇〇 単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	〇〇 単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 1人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	3人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																			
計	3人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

- ① 即戦力となる人材の育成  
常に業界の現状を十分に把握し、業界で活躍するために必要となる専門知識、技能を身につける教育をすすめる。
- ② 豊かな人間性の育成  
社会で必要となるコミュニケーション能力、創造力を育むため、企業等の職員の意見をもとに授業内容の充実を図る。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教務課のもとに、委員会を設置する。（学校法人桜井学園組織図参照）  
授業科目の開設または授業内容・方法の改善を行う際に、企業および業界団体から業界の現状、必要とされる知識、知能を聞き出し、校長および担当教員が適切な授業内容を検討し、意思決定を行う。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年3月1日現在

名前	所属	任期	種別
櫻井 則子	学校法人桜井学園 横浜ファッションデザイン専門学校	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	—
中川 香奈	学校法人桜井学園 横浜ファッションデザイン専門学校	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	—
真壁 瞳	学校法人桜井学園 横浜ファッションデザイン専門学校	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	—
櫻井 裕美	学校法人桜井学園 横浜ファッションデザイン専門学校	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	—
松村 俊幸	横浜繊維振興会	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	①
金原 正和	株式会社 金原	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	③
遠藤 至彦	株式会社 佳雅	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	③
野村 克己	糸福商事 有限会社	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	③
木村 幸雄	一般社団法人 アジア人材育成協会	令和6年3月1日～ 令和7年3月31日(1年1月)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。）

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
（年間の開催数及び開催時期）  
年2回（10月、3月）

（開催日時(実績)）  
第1回 令和5年10月4日(水) 15:00～17:00  
第2回 令和6年3月6日(水) 15:00～17:00  
0

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

業界から求められる人材について、ファッションアドバイザーの意見をもとに「ファッションビジネス」、「販売スキル」や「ビジネスマナー」の授業内でロールプレイングを導入し、数多くのディスカッションをすることにより、コミュニケーション能力を高めながら、主体性や実行力を養い、情報発信力のある人材の育成を目指す。また、アドバイザーとしてグローバルな力を養うため、周囲と協調しながら自分の意見をまとめあげ、考え方や話し合った結果を的確に伝えられるような指導を目標とする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

アパレル企業が必要とする人材を育成する上でファッションアドバイザーとして必要な「販売スキル」や「ビジネスマナー」に関する実践的な授業を行うために、ファッションアドバイザーとして経験豊富な人材を選定し、学生のスキルアップに取り組む。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 ビジスマナー(言葉遣い、接客方法等)、ファッションアドバイザーに必要な技術をロールプレイングを行いながら、自ら考え身につける。  
 成績評価の方法は出席率、期末試験、レポートの提出など評価基準に従い、講師が評価し校長が単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ファッションビジネスⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	〇〇〇〇〇	株式会社 佳雅
		〇〇〇〇〇	

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 学校教育の向上  
 様々な教育課題に対応し、学生にとってよりよい教育をすすめるために、教師の指導力の向上を図る。  
 アパレル業界の企業や団体の職員から直接指導が受けられる機会を設けることにより、業界の現状に即した内容を効果的に指導できる能力の向上を図る。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名: 「最新のCLOの活用方法」 連携企業等: 株式会社ユカアンドアルファ  
 期間: 令和5年11月10日(金)13:00~14:30 対象: ファッションクリエイティブ科常任講師  
 内容: ・アパレル業界で活用されているCLOのバージョンアップした最新版の操作方法を学び、学生のデザイン制作に対する指導に活用する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「働くことについて考える」 連携企業等: #REF!  
 期間: 令和6年2月5日(月)10:00~11:30 対象: 常勤講師  
 内容: ・働く際のルールについて知り、長時間労働や過労死などの労働問題に関して理解を深めることにより学生への指導に活用する。  
 ・学生指導において具体的な指導に役立てるための研修を行う。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名: 「メイクとファッションの関係について」 連携企業等: 岩谷学園アーティストティックB横浜美容専門学校  
 期間: 令和6年10月18日(金)10:00~11:30 対象: ファッションクリエイティブ科常任講師  
 内容: ・ファッションとメイク、ヘアスタイルを組み合わせることで全体の印象を上げる方法を学ぶ。  
 ・個性と感性を伸ばすとともに人とのコミュニケーション力を育む方法を学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「生活設計・家計管理・金融トラブルセミナー」 連携企業等: SMBCコンシューマンファイナンス株式会社  
 期間: 令和7年2月3日(月)13:00~14:30 対象: 常任講師  
 内容: ・若者の金融トラブルが多発している昨今、学生たちが金融トラブルに巻き込まれないために正しい指導の方法を学ぶ。  
 ・就職する学生が就職後に経験するトラブルについて、具体的な指導に役立てるための研修を行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ①学校関係者評価が学校評価を行い、その結果を広く公表し、透明性の高い評価にすること。
- ②学校関係者評価委員会を開き、評価結果をもとに、学校運営や教育活動に反映させること。

## (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念等を明確に理解しているか。 教育目標は定期的に見直されているか。 教育理念等が教職員・学生に浸透しているか。 教育理念等を公表しているか。
(2)学校運営	理事会が定期的開催されているか。 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。 就業規則はあるか。 出退勤が適切に管理されているか。 教職員の健康診断を実施しているか。 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	カリキュラムには教育目標が反映されているか。 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成や見直し等が行われているか。 成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 目標に達しない学生に対し、適切なフォローがなされているか。 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 非常勤講師との情報の共有を図っているか。
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか。 資格取得率の向上が図られているか。 退学率の低減が図られているか。 卒業生・在学生の社会的な活躍および評価を把握しているか。 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。
(5)学生支援	学生相談に関する体制は整備されているか。 進路・就職について相談できる担当者があるか。 奨学金等、経済的支援は整備されているか。 学校の健康診断を実施しているか。 保護者と適切に連携しているか。 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。 防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。 セクシャルハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。
(6)教育環境	教室の数や広さは、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 教育用機器や備品は整備され、活用されているか。 図書室は適切に整備されているか。 保健室は適切に整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	学生募集のための広報資料の表現・内容ならびに広報活動の方法、時期は適切か。 入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか。 募集要項の内容は適切か。 学生募集活動において、資格取得、就職状況等の情報は正確に伝えられているか。
(8)財務	中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか。 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 財務について会計監査が適正に行われているか。
(9)法令等の遵守	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 自己評価表を公開しているか。

(10)社会貢献・地域貢献	多様な文化が混ざり合う地域に暮らす人々との関りがとられているか。 地域と連携した観光・産業の各種イベントへの積極的な参加により地域発展に貢献しているか。
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員からの意見を参考に企業とのコラボレーションによるイベントをさらに充実させ、企業のアドバイザーと接する機会を増やすことにより学生がより身近に感じられるような内容を多く取り入れるように計画する。全職員で会議を開催し、学校関係者評価をもとに教育向上に努めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
松村 俊幸	横浜繊維振興会	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	企業等委員
金原 正和	株式会社 金原	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	企業等委員
遠藤 至彦	株式会社 佳雅	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	企業等委員
野村 克己	糸福商事 有限会社	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	企業等委員
木村 幸雄	一般社団法人 アジア人材育成協会	令和6年3月1日～ 令和7年3月31日(1年1月)	企業等委員
〇〇 〇〇	〇〇〇〇〇	令和〇年〇月〇日～令和〇 年〇月〇日(2年)	〇〇

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

令和6年10月2日(水)13:00～14:30

URL: <https://yfd-c.com/information/disclosure.html/>

公表時期: 45565

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①教育活動及び学校運営の状況に関する情報を積極的に公表し、関係団体及び企業との連携を密接なものとする。
- ②教育活動及び学校運営の状況に関する情報を公表し、学校と家庭・地域社会が連携して行う教育を推進する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	目標経営方針校長名所在地連絡先沿革
(2)各学科等の教育	定員資格取得
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況実習・実技等への取り組み状況就職支
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	奨学金制度教育ローン学生寮・提携学生寮
(7)学生納付金・修学支援	納付金
(8)学校の財務	貸借対照表資金収支計算書
(9)学校評価	学校評価表
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ状況入学要件卒業後の進路
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・その他(事務所にて閲覧可能))

URL: <https://yfd-c.com/information/disclosure.html/>

公表時期: 45565

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法				場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
1	○			ファッションビジネスⅠ	ファッション製造・卸・小売等の各ビジネス分野に必要な基本的なビジネス知識やスキルを総合的に身につける。ファッションビジネス知識やファッション造形知識を習得しつつ、国際的にも通用するグローバルな力を磨く。	1通	80		○			○					○	○
2	○			POP広告Ⅰ(サービス業界知識Ⅰ)	製造・卸・小売業やサービス業あるいは公共機関に至る広範囲な事業体で、その効果が活用されているPOP広告の基本から応用までを学ぶ。基本ストロークの各文字や数字等から、具体的な各作品制作の応用まで幅広く身に付	1通	80		○	△	○							○
3	○			VMDⅠ	国家検定・技能士資格取得のための基礎知識を習得する。	1通	80		△	○		○						○
4	○			色彩学Ⅰ	色彩の基礎を学びながら、色彩検定試験の資格取得を目指す。色のイメージや効果を理解し、色の基礎知識を身につける。配色を応用することにより、ファッションインテリアやファッションビジネスにおいて、より実践的なカラーが使えるようにする。	1通	40		○			○						○
5	○			アパレル産業論Ⅰ(物流・小売を取り巻く環境Ⅰ)	アパレル社員としての基礎知識を習得するとともに、アパレルの素材及び品質の知識を習得する。	1通	80		○			○						○
6	○			オフィスソフトⅠ(パソコンスキルⅠ)	パソコン経験の有無を踏まえ、パソコン操作の基本、日本語による文章作成の基本、ビジネス文書作成の基本を修得する。	1通	40		△	○		○						○
7	○			日本語演習Ⅰ(外国語演習Ⅰ)	文法・語彙・漢字の基礎力を習得し、基本を押さえることにより日本語の4技能(読む・書く・話す・聴く)を総合的に押し上げる。	1通	##		○			○						○
8	○			日本語基礎Ⅰ(外国語基礎Ⅰ)	日本語の基礎的な文法や語彙を習得しながら、生活で使える正しい日本語を身につける。ひらがなやカタカナだけでなく、漢字の練習を行い日本語学習が進められるようにする。	1通	50		○			○						○
9	○			簿記Ⅰ(ファイナンスⅠ)	簿記の基礎知識を習得することにより、簿記科目の把握や仕分けに慣れ、企業の経理業務が可能になるようにする。	1通	80		○			○						○
10	○			スタイリング(フォト・スタイリングⅠ)	ファッションの歴史・文化・トレンド・コーディネート・デザイン・アイテム・パランス・素材・サイズなどの基本的なファッションの知識を学びながら母国と日本の違いを認識し、日本のファッションや	1通	80		△		○	○						○
11	○			ビジネスマナー(キャリア開発Ⅰ)	日本社会で求められる適切な表現を学び、ビジネスで用いる用語や基本的なビジネスマナーを理解できることを目指す。	1通	80		○			○						○
12	○			ファッションビジネスⅡ	ファッション製造・卸・小売業等の各ビジネス分野に必要なファッションビジネス知識やファッション造形知識を習得し、ファッションビジネス能力検定資格の取得	2通	80		○			○						○
13	○			POP広告Ⅱ(サービス業界知識Ⅱ)	商品や店舗の魅力を伝えるため、消費者の購買意欲を高めるための販促方法を学ぶ。商品やセールなどの情報をいかに効果的に来店者にアピールし、売上アップに繋げる	2通	80		△		○	○						○
14	○			VMDⅡ	国家検定技能士資格を取得するための技術を習得する。また、実際の店舗の商品を想定し、その演出方法、構成の基本および展開方法を勉強し、店舗に於ける様々なディスプレイ技術の習得を目指す。	2通	80		△	○		○						○
15	○			リテールマーケティングⅠ	流通・小売業を始め、リテールマーケティングの知識やスキルを必要とする多様な業種・分野にも対応可能な力を身につけていきます。	2通	##		○			○						○
16	○			色彩心理(色彩学Ⅱ)	色名、色彩学の基礎を学び、配色、パーソナルカラーに応用できるようにする。色の原理、多様な配色技法を学び、ファッションデザイン、ビジネスにおいて、より実践的にカラーが使えるよう理解する。	2通	80		○	△	○							○
17	○			アパレル産業論Ⅱ(物流・小売を取り巻く環境Ⅱ)	習得した基礎知識を元にアパレルの物流や貿易の知識を習得する。さらにアパレルの体系や環境を学ぶ。	2通	80		○			○						○
18	○			オフィスソフトⅡ(パソコンスキルⅡ)	1年次に修得した文章入力スキル別のクラス分けにより、Excelの基本的操作を習得し、表計算やグラフ作成、関数の理解を深める	2通	40		△	○		○						○
19	○			日本語演習Ⅱ(外国語演習Ⅱ)	就職活動に対応できる日本語の4技能(読む・書く・話す・聴く)のブラッシュアップを目指すとともにJLPT受験への合格を目指す	2通	##		○			○						○
20	○			日本語基礎Ⅱ(外国語基礎Ⅱ)	日本語基礎Ⅰで学んだ日本語学習を元に基本的な文法事項の理解と運用力の定着を図り、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能を伸ばす。	2通	50		○			○						○
21	○			簿記Ⅱ(ファイナンスⅡ)	日常の取引や決算整理の方法を習得することにより、簿記能力検定試験の合格を目指す。	2通	80		○			○						○
22	○			ビジネスキャリアⅡ(フォト・スタイリングⅡ)	キャリア形成(卒業後の生き方を考えること)について学びながら、履歴書の書き方の指導と面接の練習を行う。キャリア形成の実行を目指す。	2通	40		○			○						○
23	○			ビジネスマナーⅡ(キャリア開発Ⅱ)	日本企業で求められるビジネス能力を学び、様々な業界・業種に共通したビジネスマナーとルールを習得する。日本企業で求められるビジネス能力を学び、様々な業界・業種に共通したビジネスマナーとル	○	○		○			○						○
24				○○○	○○○○○	○	○											
合計						23	科目	1700 単位(単位時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 平素の成績を評価し、学期末試験による認定を行い、所定の全教育課程を修了したと認められるとき	1学年の学期区分	2期
履修方法: 通学 (留意事項)	1学期の授業期間	17週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。